

社会をたのしくする障害者メディア

# コットン

KOTONONE

Vol.19

自然栽培パーティーその5

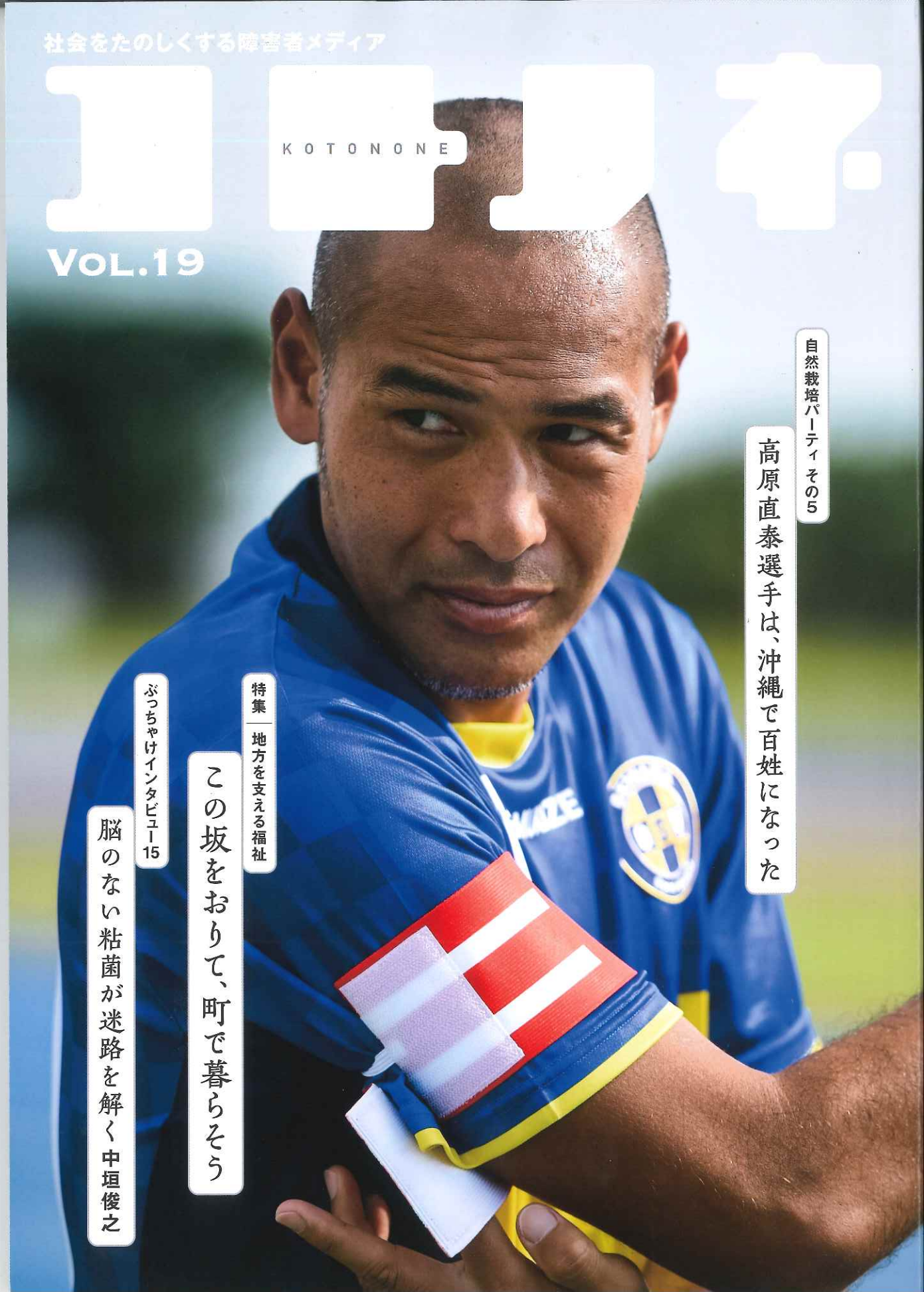
高原直泰選手は、沖縄で百姓になった

特集 地方を支える福祉

この坂をおりて、町で暮らそう

ぶっちゃけインタビュー15

脳のない粘菌が迷路を解く中垣俊之







足場板の荷卸しをする荒川和也さん。

もう刑に  
服してきている  
わけですから。  
大きな気持ちでね

元受刑者や執行猶予中の人を  
その罪の内容も回数も、年齢も問わず、  
雇用し続けてきた会社が、札幌にある。  
その数、五〇〇名以上。  
障害者も積極的に雇用する  
北洋建設株式会社は、四三年間、  
「来る者拒まず、去る者追わず」の姿勢を、  
自然体で貫いている。

#### 今日も車いすで、全国各地へ

「次は、茨城に行きます。四月は三  
重に、長崎は今年の三月に行つて、去  
年の九月には佐世保に行きました」。  
なんの話かと思えば、すべて「刑務  
所」。元受刑者たちを受け入れている  
とは聞いていたが、社長自ら刑務所に  
出向いているとは思っていなかった。

流れはこうだ。北洋建設は、法務省  
による「協力雇用主制度(※1)」と日  
本財団による「職親(しよくしん)プロ  
ジェクト(※2)」に参加している。どちら  
も、罪を犯した人の就労を支援する  
制度であり、特に職親プロジェクトでは、  
受刑者が刑務所を出所する前、服役  
中に企業と面接をし、就労先を決め  
る。刑務所内で就職面接が行われる  
ため、社長自ら刑務所に出向く、とい  
うわけだ。小澤さんは車いすのため、  
移動も一苦労。一人では不便なので、  
いつももう一人の社員を連れて二人が  
かりで面接に行くと言う。

どんな方を採用するんですか、と尋  
ねると「うちはほとんどみんな受け入  
れます」という返事。年齢も、犯した  
罪の種類も関係ない。面接をした人、



左が会長の小澤静江さん。右が社長の小澤輝真さん

#### 社長は一級障害者

札幌に、元受刑者や執行猶予中の人をこれまで五〇〇人以上受け入れている会社があるらしい。そこでは、障害者雇用もしているという。どんな会社なんだろうと、連絡をとると「わたしも一級の障害者です」と社長から返事がきた。ますます興味が湧く。

小雨の中、迷いに迷って到着したのは、札幌市白石区にある北洋建設株式会社資材センター。北洋建設は、足場組みや土木工事、解体工事などの業務を行う建設会社。従業員数六〇名のうち、一四名は元受刑者や執行

猶予中の人、五名の障害者も働いている。「社員じゃありませんが、ぼくを入れたら障害者雇用は六人ですね」と代表取締役の小澤輝真さんは、笑いながら言った。小澤さんは、四年前に脊髄小脳変性症を発病。ドラマ「1リツトルの涙」の主人公と同じ病气だ。しゃべり方が少しおかしいと思つて、病院を受診したところ、病気が発覚。難病指定されていて、小脳が委縮する進行性の病気で、最重度である身体障害者手帳一種一級。一人で歩くことが難しく、またしゃべりにくくなっているものの、精力的に仕事をこなしている。





全員だ。「だから会社に戻ったらすぐ内定通知を出して、道外なら仮釈放の日までに航空券を送って。刑務所から空港までと、空港から札幌駅までは自力で来させます。そして迎えに行くからって。ちゃんと来れるか、見たいんです。やる気がある人間は来ます」。

### 前科四三犯のおじちゃん

横に座っていた、輝真さんの母親で会長の静江さんが話しはじめた。「四三年前、主人といっしょに六畳一間からこの会社をはじめました。当時わたしは二〇代。主人は、入れ墨入ったのとか、暴走族の子とか、拾ってくるんですよ。とにかく面が見がよかったです。輝真は、小さいころからそんな人たちを当たり前として見てきたんです」。

輝真さんがよく遊んでもらっていた「やさしいおじちゃん」は前科四三犯、無銭飲食を繰り返す人だったし、ケンカは日常茶飯事。階段から人が落ちたり、救急車も数えきれないほど

※1 協力雇用主制度  
法務省の制度で、少年院や刑務所を出た人、保護観察を受けている人を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生協力する民間の事業主のこと。雇用ではなく、見学会や職場体験の受け入れだけでも可能。企業への支援として、雇用した場合、奨励金や身元保証制度もある。登録の申し込み、問い合わせは最寄の保護観察所まで。

※2 職親プロジェクト  
日本財団が取り組む「再犯防止プロジェクト」の一つ。企業と連携し、少年院出院者や刑務所出所者のうち、更生意欲が高い者を対象に少年院や刑務所内で面接を行い、出院、出所後六カ月以内の期間就労体験を行い、雇用へとつなげることで円滑な社会復帰を支援するとともに再犯率の低下を目指す。

※3 保護観察  
犯罪をした人または非行のある少年が、社会の中で更生するように、保護観察官及び保護司による指導と支援を行うもの。保護観察処分少年、少年院仮退院者、仮釈放者、保護観察付執行猶予者及び婦人補導院仮退院者の計五種の人とその対象に当たる。

呼び出した。小澤さんは「荒くれ者」たちといっしょに育ったのだ。

そして「ほとんどの土建会社っていうのは、入れ墨しよったのとか、いろんな人がいるのが当たり前だったんです。いまでは考えられませんが」(静江さん)。業種的に「社会からはみ出した人たち」を受け入れる土壌もあった、とも言えるだろう。

創業者である父親が五〇歳の若さにして輝真さんと同じ病で亡くなったとき、静江さんは会社をたたもうと思った。「こんなおつかない会社、女一人やれない」。けれど行き場のない人が一〇人もいた。「給料いらさないから置いてくれば言うんです。輝真も『ぼくが絶対継ぐから』って言うてくれて。その一言でやろう、と思いました」。その会社を二年前に継いだ小澤さんにとって、元受刑者たちを受け入れることは、ごく自然なことなのだろう。

### 「障害は、なんなのかなあ」

北洋建設では、いま五名の障害者も働いている。

取材日は、資材センターで、二名の障害者が働いていた。センターでは、足



全国から届く感謝の言葉をつづった手紙

場などの資材を片付け、整理、また準備する。雨が降ろうが、吹雪になろうが、朝から晩まで力仕事が続く、ハードな仕事だ。小雨の中、もくもくと建築資材の整備をしている塩崎勝彦さんは、取引先の解体業者にいたとき脳こうそくで倒れた。リハビリがてら入れてくれないか、とこのセンターにやってきてもう一〇年になる。この所長、佐藤

武夫さんは言う。「塩さんは最初のうちは、何言ってるか、わかんなかったよね。しゃべれなかったから。だけど最近なら、完全に言っていること、わかる。出てこない言葉もあるんだけど、一〇年もいれば、だいたいわかるんだわ」。働くことがリハビリになったと同時に、周りの人との関係性も築けたのだろう。主に小物の準備を担当、朝やることを

伝えれば、「勝手に一人でやっている」という具合だ。

もう一人、荒川和也さんは今年(二〇一六年)四月に入社。付き合いでいる彼女が昔、北洋建設で働いていた縁で、やってきた。「もう付きつきりではないとダメなの。障害は、なんなのかなあ。手帳は持つてるって言うんだけど」と、佐藤さん。いまは、資材の中でも比較的軽いパイプなどを準備する担当だが、計算が苦手なため、正確な数をそろえることが、難しい。いまはいっしょに指で差して、声に出しながらチェックすることが欠かせない。「障害者扱うのは、大変なんだわ。やっぱり一から教えないといけないしよ、すぐなんて覚えられない。根気よくやらないと」。障害者だからといって、特別扱いはしない。仕事ができるように、ちょっと困りながらも助けている、そんな感じだ。

### ぴしっとした会社なら、二日もいられない

北洋建設に入社した人は、まず資材センターで基本を覚え、そこから実際の建設現場に出るようになる。刑務所を出所した人は、三食(ごはん)付きの会社の寮に住み、すぐに「住まい」

と「仕事」が与えられる。どんな人が入るか、といった連絡は特に事前に社内にはまわさないが、自然に「どこから来た?」って話になるの、どこの刑務所から来た? (佐藤さん)。

自分の素性を隠さなくていい、同じような経験をした仲間がいる、家がある、仕事がある。「うちはおちうと変わっているかもしれないけども、これが普通のぴしっとした会社なら、刑務所帰りって言っただけで、みんな白い目で見られて、二日もいられないでしょ。ここはある程度そういう人がいるから、ちょっと安心かなって(静江さん)。

では、ほかの社員からの反発はないのか。「うちの会社はそんなもんだと。だって何十年も、こんなふうやってきてますもの」。

近所の人たちはどうか。「いままで近所でのトラブルは一度もありません」。地域の人たちとのコミュニケーションも大事にしている、その象徴が「雪かき」。無償で、自分たちの周りをやるついでに近所の雪かきもやっているのだという。怒られるどころか、感謝されて、日本酒などをお裾分けしてもらったともあるという。



## 出所後の「居場所と出番」

北洋建設のように、積極的に元受刑者を雇用し、地域にも受け入れられているような企業は、いまの日本ではそう多くない。そもそも、満期出所者のうち、「帰宅先」と呼ばれる出所後の身寄りがある人は半数以下。出所しても、行き場のない人が半分以上を占める。その身寄りのない人のうち、約六割が一年未満で再犯、五年以内で見ると、なんと九割以上が再犯する、という統計が出ている。

また、仕事に関しても、保護観察中（※3）に仕事のあった者の再犯率が七・六％なのに対し、仕事のなかった者は二八・一％、実に約四倍。また、刑務所再入所者の約七割が、再犯時無職、というデータもある。

再犯防止のために必要なものは「居場所と出番（住まいと仕事）」と言われており、行政も支援策をとっているが、まだ十分でないのが実情だ。たとえば「就労」に関しては前述の「協力雇用主制度」があり、登録企業が全国で約一万二〇〇〇社以上あるものの、実際に雇用しているのはその

うちわずか五〇〇社。また、登録している企業の業種も建設業などが多く、選択肢が限られている。昨年（二〇一五年）四月からは、雇用した企業に最長六カ月間、月額最大八万円を払う奨励金制度など、雇用する企業をサポートする体制ができ、雇用企業数は増えてきているが、年間約二万五〇〇〇人の出所者を支える体制とは言い難い。自分の過去を隠し、働いている人の多さは容易に想像できる。十分なサポートを受けられず、生活の不安定さから、再び罪を犯してしまう、そんな負のスパイラルが見えてくる。

### 来る者拒まず、去る者追わず

これまで北洋建設で受け入れた約五〇〇人は一人ひとり、強者ぞろい。エピソードには事欠かない。全身入れ墨は「見慣れている」くらいのもので、覚せい剤を社員に売りつけて再逮捕された人、会社のトラックを盗んで畑に突っ込んだあげく、逃げてしまった人もいた。三〇〇万円の弁償代は会社で肩代わりだ。「うちに来ると、仮釈放になるので、その間だけいて、時期が来たら狙ったようにいなくなるのがありますよ

ね」（輝真さん）。二度、三度と罪を犯してしまふ人もいる。

一人経験しただけでも、もう雇用をやめたくなくなるようなエピソードのオンパレードだが、どんな人でも何度でも、やってみないとわからないから、と輝真さんは言う。「後がないから、がんばるんです。たいいて一回目より、二回目の方ががんばります」。

来る者拒まず、去る者追わず。長く勤めてほしいとは思っているが「いつでもどこにいてもいい」と言っている。技術が身についたら、別の会社に行ってもいいんだよって（静江さん）。北洋建設を辞めていった人の中には、会社をおこして社長になった人も、行方知らずになつていく人もいる。

### 母の日は、カーネーションの日

会長である静江さんには「第二かあちゃん」というもう一つの呼び名がある。少年事件の場合、家庭裁判所で、処分をいったん保留にして、生活状況を一定期間観察した上で最終的な処分を決める「試験観察」という審判が下る場合がある。このうち、家庭環境に問題があるとされる場合、自宅で

はなく、適切な委託先に少年を預けて生活させる「補導委託」という選択肢があり、これまで静江さんは三三人の子どもたちを引き受けてきた。預かるのは、たとえば虐待を受けてごはんを食べさせてもらっていなかったなど、情状酌量の余地がある子どもたち。約半年間預かって、いっしょに生活をする。

「家庭を知らないわけですから、たとえばお寿司をとっても、好きなうにばかり食べてしまつたり、マナーが一切なつてませんね。生活全般にわたるので、母親的立場じゃないと、育成できないんです」。観察期間終了後には、裁判官が家に来て、裁判所に早変わり、最終的な審判が下される。三三人のうち、二人は期間中に窃盗などで再び捕まり、三〇人は「不処分」となった。

母の日には、「第一かあちゃんに、たくさんカーネーションが届く。子どもが生まれたからと実の親よりも先に、静江さんに赤ちゃんの顔を見せに来る子もいる。「お小遣いやらなきゃいけないから、あんまり来てほしくないけどね」と言う顔は、言葉とは違って、うれしそうだ。



### 「働く人」の可能性

最新の犯罪白書（二〇一五年版）によれば、二〇一四年検挙された人は、二五万一一五名。初犯、再犯ともに減少傾向にあるものの、その減り幅に差があるため、「再犯者率」は一九九七年から一貫して増加、四七・一％と検挙者のうち、ほぼ半数を再犯者が占めるまでになっている。刑務所を出た後に、自分の居場所をうまく見つけられず「人生をリセットしたくなった」「刑務所に戻りたくて」と罪を重ねていく人たちがいる。

彼らが社会との接点を結び直し、安定した暮らしを取り戻すその第一歩として、仕事の果たす役割は大きい。一度レールから外れた人を、排除するのではなく、どう受け入れていくのか。元受刑者たちへの支援は、まだはじまったばかり。「もう刑に服してきてるわけですから、大きな気持ちでね。そしたら社会も明るくなるかなって」（静江さん）。

今日も社長は、車いすで全国の刑務所を飛び回る。



「背中なら撮っていいよ」と塩崎勝彦さん

北洋建設株式会社

●代表者：小澤輝真

●住所：北海道札幌市東区北20条東12丁目6-15

●事業：足場組み、土木工事、解体工事などを行う。従業員

数60名のうち、14名は元受刑者や執行猶子中の人。

障害者雇用は5名。